令和７年度　京都府立綾部高等学校（本校）（全日制）　学校経営計画（スクールマネジメントプラン）　（実施段階）

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
１　３Ｑ＋４Ｓの推進 （１）３Ｑ【Quality　Teacher】教師としての資質向上 ４Ｓ【整理】【整頓】【清潔】【作法】 【Quality　School】教育内容の充実 【Quality　Students】未来を切り拓く人材の育成 ２　Ａ・Ｇ・Ｐ【Ayabe Global Program】の推進 ① 高い人権意識に基づく教育活動の推進 ・自他の生命と人権を尊重し、多様な価値観を認め合う姿勢の育成 ・国際理解や地域連携を通じ、多様な文化や考えに触れる機会の提供 ・生徒一人ひとりの個性を尊重し、主体的に表現できる場を創出 ・スポーツや文化活動を通じて他者と協働し、人間関係を深める力を育成 ② 自らの生涯を豊かにする力の育成 ・探究的な学びを推進し、課題発見・解決の力を高める教育の実践 ・グローバル特進、ユニバーサル探究、スポーツ総合専攻の各コースでの多様な学びの提供 ・自己実現に向けた挑戦を応援し、成長を実感できる環境づくり ・生徒一人ひとりのキャリアビジョンに寄り添い、進路選択を支援 ③ 社会に通じる力の育成 ・地域社会とのつながりを重視し、ボランティア活動や課題解決型の学びを推進 ・国際交流を通じた多文化理解の深化と、グローバルな視野の育成 ・仲間と共に切磋琢磨し、挑戦する姿勢を育むスポーツや文化活動の実践 ・知識を活用し、未来を切り拓く創造的な思考力と問題解決能力の育成 ④ 教育環境の充実 ・安心・安全に学び、挑戦できる環境整備と生徒の心身の健康支援 ・学校、家庭、地域、関係機関が連携し、全員で生徒の成長を支える体制の構築 ・ICTを活用した教育活動の推進と、教職員間の協働を促進するデジタル環境の整備 ・教職員の働き方改革を推進し、質の高い教育活動を継続的に展開 ・学校の特色や生徒の活躍を積極的に発信し、地域に開かれた学校づくりを推進	＜成果＞ （１）ＤＸ研修等で得た知識を教科間で積極的に共有し、学びの質の向上に貢献。また、デジタルツールを活用したリモート授業を実施するとともに、ＷＥＢ会議を積極的に展開して業務のさらなる効率化を実現。ＤＸハイスクール事業により環境整備が進んだ。 （２）探究活動の深化と協働の強化 探究活動や課題学習において、教員組織の再編を進めた。大学、企業、市役所等との連携を強化し、実社会と結びついた学びを提供。生徒の思考力・判断力・表現力の向上に加え、創造的な課題解決能力の育成にも注力した。 （３）進路指導では、より個別化されたサポートを実施。四年制国公立大学合格者９名に加え、難関私立大学への合格者も増加。就職内定率も100%を維持しつつ、企業との連携強化を通じて生徒のキャリア形成を支援。進学・就職の両面で、生徒の希望を踏まえた戦略的な指導を実施。 （４）体育系では、カヌー部が全国高等学校総合体育大会で初優勝し、アジア大会、国民体育大会、全国選抜大会においても好成績を収める。女子ソフトボール部は国民スポーツ大会に、男子ソフトボール部は選抜大会に出場。文化系では、美術部と放送部が全国高校総合文化祭に出場。オーストラリアからの留学生受入れ、府教委の海外探Q留学をはじめとした留学等、国際交流事業を進めた。 （５）インスタグラム等の広報活動や中学生対象の説明会の見直しを推進し、学校の魅力を発信。衛生委員会の取組によりノー残業ウィークの制度を確立し、時間外労働の削減に取り組んだ。 ＜課題＞ （１）生徒および教職員の人権意識を向上させるため、より効果的な人権学習と教職員研修を推進。自他の尊重とコミュニケーション力を育む教育活動の展開するとともに、いじめ等の防止対策を組織的に推進し、公正で安心して学べる教育環境の整備に努める。 （２）課程間、キャンパス間、分掌間、教科間等の連携、協働を基盤とした学校運営、教育DXの促進による業務の効率化、教員による学び合いの場の創出、教育の質を維持・向上させる施策を導入し、持続可能な教育体制の確立。 （３）模試の分析と指導への反映、家庭学習の充実と学習習慣の定着等、学校全体で見直しをすすめ、各課程、学科、コースの特色を活かした学力向上のためのプログラムの充実。DXハイスクール事業を活用した学びの質の改善を通じた生徒の学習意欲の創出。 （４）社会に通じる力の育成を目指した探究活動の充実を図る。特にDXハイスクール事業で整備された施設・設備を最大限活用する校内体制を整えるとともに、大学・企業・自治体と連携し、社会課題に向き合う実践的な学びを提供。本校の特色ある教育活動として継続的に推進。 （５）ボランティア活動の充実による生徒会活動の活発化を通じて、学校生活の楽しさを地域や中学校へ広く発信。主体的に活動する生徒の姿を通じて、本校の魅力を伝え、志望者数の増加を図る。 （６）４Ｓ運動を基盤とし、あいさつの励行、携帯電話・スマホの適切な使用、通学時のマナー、自転車の乗車マナーの向上等の規範意識の向上。特に非認知能力育成の取り組みを学年ごと・教科横断的に展開し、持続可能な形で生徒の非認知能力を育成	■重点１　魅力ある学校づくりと業務のスリム化の両立 ・課程間、キャンパス間、分掌間、教科間等の連携、協働を基盤とした学校運営の深化 ・教育ＤＸの促進により、教育活動と事務の効率化を推進 ・教職員の専門性向上を支援する研修体制の充実と、校内外の学び合いの場の創出 ■重点２　充実した学びとキャリア教育で未来を切り拓く力を養う ・各課程、学科、コースの特色を活かした学力向上のためのプログラムの充実 ・探究的な学習活動の一層の推進により、生徒の課題発見・解決力を育成 ・生徒一人ひとりのキャリアビジョンに寄り添った進路支援を展開し、主体的な進路選択を促す ■重点３　生徒一人一人の成長を支える温かな指導 ・自他の尊重とコミュニケーション力を育む教育活動の展開 ・多様性を尊重した支援体制の構築により、すべての生徒が安心して学べる環境を整備 ・規範意識と自律を促す生徒指導を推進し、主体的・協働的な態度を育成 ■重点４　協働の喜びを実感する特別活動の創出 ・協働の精神を育む場としての学校行事を充実させ、生徒の成長を促進 ・スポーツ・文化活動やボランティア活動など、多様な学びの機会の提供 ・国際理解・地域貢献活動を通じて、社会・地域とつながる意識を育む ■重点５　地域とともに未来を描く開かれた学校の運営 ・地域との連携を強化し、教育活動に地域資源を活用 ・学校の魅力や特色を発信する広報活動を積極的に展開 ・地域社会との協働を通じて生徒募集活動を充実させ、地域に根差した学校づくりを推進

評価領域	重　点　目　標	具　体　的　方　策	評価		成　果　と　課　題
魅力ある学校づくりと業務のスリム化の両立	・課程間、キャンパス間、分掌間、教科間等の連携、協働を基盤とした学校運営の深化	・各種会議や研修会を通じて学校経営方針や重点目標や指導の在り方などについて教職員の共通理解を図るとともに、学校全体を見通した円滑な校務運営のための課題の明確化と改善方法について検証し解決策を実行する。	A	A	・会議や研修により経営方針の理解と部門間連携が進み、学校全体の課題把握と改善が進展した。更に研修の質向上や内容精選、改善策を継続し組織文化として定着させる仕組みづくりが課題である。
	・教育DXの促進により、教育活動と事務の効率化を推進	・ＩＣＴを活用した探究的な学びを強化し、情報機器の管理と教育活動の効率化を図るため、効果的な活用方法を広く共有する。教職員の負担軽減を目的に業務のデジタル化を進める。	B		・教育DXにより事務効率化やICTを活用した探究学習が進展。一方でICT習熟度の差や新たな業務負担が課題。DXルーム活用やタブレットの弊害に改善の余地があり、AI活用促進も必要である。
	・教職員の専門性向上を支援する研修体制の充実と、校内外の学び合いの場の創出	・総合教育センター等を活用した研修に加え校内研修も充実させる。人材育成担当教員と連携し、計画的な研修を推進しOJTの観点を教職員に定着させるとともに、様々な学び合い事業の導入を進める。	A		・校内外研修を継続し専門性向上を図り、OJTで若手育成も進展した。研修成果を教育改善へ生かす意識も高まった。一方で個別最適化や定着のためのフォローが課題である。
充実した学びとキャリア教育で未来を切り拓く力を養う	・各課程、学科、コースの特色を活かした学力向上のためのプログラムの充実	・生徒の知的好奇心を高め、生徒一人ひとりが主体的に目標に向かって自学自習に取り組む環境作りを行う。模擬試験の事前・事後の取組の充実、模試結果のデータ分析をもとにした研修会や教科担当者会議を開くなどして、授業改善や適切な進路指導につなげる。Literasワークブックの活用を図り学力のベースアップと汎用的能力の育成や小論文模試・英検・漢検への積極的なチャレンジを促す。	A	A	・教科の特性を生かした補習や個別指導を工夫し、学習支援の質が向上した。模試結果の分析・共有も進み、一部の生徒では知的好奇心や学力の伸長が見られたが、全体の意欲向上や教科間の差には課題が残る。また、全員模試やリテラス、学年面談、進路指導部との連携により一定の成果があり、コース選択のミスマッチも抑えられたが、継続的な改善が求められる。
	・探究的な学習活動の一層の推進により、生徒の課題発見・解決力を育成	・ゼミ形式の探究活動を新たに実施し、教員の専門性を活かすとともに、生徒の研究発表会やDXルームを活用し社会に向けて成果を発信する機会を提供する。外部人材や地元企業・自治体と連携し学校外との関わりを増やしてキャリア像を描けるようにする。	A		・探究的な学習を通して生徒の課題発見・解決力が着実に育成された。DX活用や外部人材との連携、講演会や交流活動など多様な取組が生徒の学びを広げ、今後の発展につながる基盤を築いた。
	・生徒一人ひとりのキャリアビジョンに寄り添った進路支援を展開し、主体的な進路選択を促す	・学校全体の進路指導方針を明確にし、個別支援を更に充実させる。進路指導部を中心とした各学年との連携体制のもと、３年間を見通した進路学習を展開し、個に応じた進路目標を設定し新鮮で明確な進路情報を提供し進路実現に繋がる指導を行う。	A		・生徒一人ひとりのキャリアビジョンに寄り添い、学年と進路指導部が連携して個別面談やガイダンスを充実させた。主体的な進路選択を促す取組が進み、希望進路の実現に向けた意識と行動を高めることができた。

生徒一人一人の成長を支える温かな指導	・自他の尊重とコミュニケーション力を育む教育活動の展開	・「生徒の成長を支える温かな指導とは何か」の共通認識を基盤とした日常の声掛けの工夫等で生徒の自己肯定感を高める。授業や学校行事の中で、話し合いの活動や交流の場を設定して考えを共有しながら学ぶ活動を増やす。エゴグラムを使った自己理解の講演会を開催する等、生徒の非認知能力の成長を促す取組を進める。	B	B	・自他を尊重する姿勢や円滑なコミュニケーション力が、学年や活動を越えた協働的な取組を通して着実に育まれたことは大きな成果である。今後は、より多様な場面でその力を発揮し、実践の幅を広げていく機会づくりが課題となる。
	・多様性を尊重した支援体制の構築により、すべての生徒が安心して学べる環境を整備	・生徒が置かれている状況やその背景を丁寧に分析し、適切な支援につなげていけるようにスクールカウンセラーと連携した教育相談と関係教職員との連携を強化する。組織的・計画的な人権教育を推進し、人権尊重の精神と他人を思いやる心を育成する。	B		・多様性を尊重した支援体制の構築により、生徒が安心して学べる環境づくりが進んだ。SCによる教員支援、掲示物の表記見直し、日々の声かけを通して、生徒がお互いを尊重する人権意識の向上が見られた。一方で、より深い理解と実践のため、人権教育の内容や指導方法の工夫・改善が求められる。
	・規範意識と自律を促す生徒指導を推進し、主体的・協働的な態度を育成	・生徒指導部を中心に、教職員全体で校則やマナーや４S（習慣・清潔・整頓・整理）を遵守させ生徒の規範意識を高める。SNSトラブルをはじめとした問題行動やいじめの未然防止を狙いとした意図的・組織的・系統的な指導を行う。生徒会や委員会活動、ボランティア活動などを通じて、責任感を持ち自ら考え決定し行動できる環境を整える。	B		・学年ごとの工夫ある指導により、生徒とのコミュニケーションが十分医とれて、教師との信頼関係が深まった。身だしなみ指導に課題も見られるが、全校的な連携を強化して、生徒会や委員会活動、ボランティア活動などを通じて主体的・協働的な態度の育成をさらに進めていきたい。
協働の喜びを実感する特別活動の創出	・協働の精神を育む場としての学校行事を充実させ、生徒の成長を促進	・生徒が企画段階から関われる仕組みを作り、学年やクラス、個人で役割を分担しながら責任を持って進めることで、協力の重要性を実感させる。 「綾高だより」やホームページ等を活用し、行事を通じた「主体性」や「協働性」の成長に生徒自身が気づくことができるよう意図的な働きかけを行う。	B	B	・学校行事を通して生徒の自主性や協働の姿勢が着実に育まれた。学校全体での取組が成果として表れた。一方でキャンパス間の協働の難しさなど、今後の改善点も見えた。
	・スポーツ・文化活動やボランティア活動など、多様な学びの機会の提供	・地域との文化・スポーツ交流や文化・スポーツを通じた社会貢献（地域イベント、障がい者スポーツ、地域の健康促進活動への参加等）ができる機会を提供する。ボランティアバンクを活性化し、生徒主体の社会貢献を促進し、継続的なプロジェクトに取り組む。	A		・スポーツ・文化活動では丁寧な指導のもと成果が多く、国際大会での活躍も見られた。自主性を重んじた取組で学校行事も成功し、多様な学びが広がった。今後はボランティア活動や地域活動への参加を生徒主体で取り組むことが課題でとなる。
	・国際理解・地域貢献活動を通じて、社会・地域とつながる意識を育む	・海外の高校生とのオンライン交流や外国文化体験イベントを活用して等を通じて異なる文化や社会問題について視野を広げる。地元企業や自治体と連携し、地域の課題を解決する活動や地域イベントへの協力、地域の活躍人材との交流を通じたキャリア教育を推進する。	B		・イギリス・オーストラリア短期留学や海外高校生交流会、高校生議会の開催など国際理解の面で大きな成果を上げた。校内での主体的な取組も進んだが、地域社会への発信や貢献活動には今後さらに工夫が求められる。
地域とともに未来を描く開かれた学校の運営	・地域との連携を強化し、教育活動に地域資源を活用	・地域連携の取組を年間計画に落とし込み、総合的な探究の時間やホームルーム活動、生徒会活動の場で地域の専門家や大学生、企業、団体と連携し、講演やワークショップ、地域貢献活動を実施する。	B	B	・地域資源を生かした教育活動が進み、生徒の地域理解や主体的な取組が深まったことは大きな成果である。今後は計画性を高め、継続的な連携体制を整えることが課題となる。
	・学校の魅力や特色を発信する広報活動を積極的に展開	・戦略的な広報を推進し、学校の魅力を効果的に発信する。生徒主体で広報活動を展開できる仕組みを作る。また、行事の魅力をより効果的に伝える生徒の活躍の様子や、本校の取組・情報などを、「魅せる内容」で記録し、進路便り・広報誌・WEBページを通して、迅速かつ明確に発信する。	A		・生徒主体の広報活動が定着し、SNSやHPで学校の魅力を効果的に発信できた。写真や記事の質も向上し、地域とのつながりも深まった。一方で、更新頻度や年間計画の整理が課題として残る。
	・地域社会との協働を通じて生徒募集活動を充実させ、地域に根差した学校づくりを推進	・中丹地域を中心に、地域資源（企業・団体）の活用、地域のイベントへの参加、地域のメディアの活用、地域住民との協働を通じて地域に根ざした学校としての魅力を高めるとともに、効果的な情報発信を行う。	B		・地域企業との交流や部活動での地域イベント参加などの主体的な取組により、地域協働と生徒の意識向上に一定の成果が見られた。今後は連携の継続と情報発信を強化し、地域に根差した学校づくりの更なる発展を図る。

学校関係者評価委員会による評価	・学校が楽しいと答えている生徒が多いが、どのような点が楽しいのか、さらに調査すると、学校の魅力が絞り込めるのではないか。中学生にとって魅力的な学校となるように、綾高の魅力を絞り込んでほしい。 ・地域への情報発信はできている。定員割れに一喜一憂せず、生徒募集活動や地域との連携活動など、これまでの活動をさらにブラッシュアップして継続してほしい。 ・Instagramを楽しく見ている。中学生がどの程度見ているのか、オープンスクール等で調査してはどうか。 ・DX化、ICT化、AIなど、新しい技術がどんどん発達してきている。使いこなすには、教職員の学びが必要である。新しい技術を先生が使ってみないと、生徒たちに指導できない。研修といった堅苦しいものではなく、とにかく使ってみるというチャレンジ精神が大切である。 ・生成AIに頼りすぎると、生徒たちの文章を書く能力が身に付かなくなるのではないかと心配している。自分の考えを文章で表現できるような従来の指導も継続してほしい。 ・京都府北部全体が定員割れの状態である。希望をすれば入学できるので、中学生は行きたい学校に行けるようになっている点は良い。 ・全ての課程で地域資源である外部人材を効果的に授業に取り入れられている。 ・福知山公立大の学生など、若手の外部人材との交流は高校生にとって魅力的だと思う。課程・学科を問わずに、さらに活用してほしい。
次年度に向けた改善の方向性	・スクール・ミッション実現のため、高い人権意識に基づく教育活動の推進を教職員の連携と熱意を基盤に進める。 ・探究活動・国際交流・スポーツ活動と日常の学習をつなげ、主体的な挑戦と成長実感の機会を広げ、自らの生涯をを豊かにする力を育成する。 ・結果だけでなく努力や学びの過程を尊重し、社会に通じる力を育成する。 ・ICT活用、個別最適な学習、協働的な学びを充実させ、基礎・基本の定着を丁寧に支援する。 ・挨拶、時間管理、ICT リテラシー、基本的生活習慣を学校全体で一貫して育成する。 ・学校経営計画や保護者・生徒アンケートでは概ね良好な評価。成果はさらに伸ばし、課題は着実に改善する。 ・DXハイスクール事業でハード面が整備され、様々な取り組みを展開した。次年度は更に充実させてデジタル人材育成を進める。 ・研修受講や公開授業の参観者が少なく、参加しやすい環境づくりが必要。 ・制服の着こなし・身だしなみに課題があり、継続的で粘り強い指導が求められる。 ・多様な生徒に対応するため、SC・アドバイザー・外部機関との連携を適切に進める。 ・地域から信頼され、在校生はもとより、中学生にとって魅力的に感じられる学校づくりをすすめ、効果的な広報活動を推進する。